

米国・欧州における製品形状の「ミックス知財保護」と権利行使戦略 ～制度比較と実践的アプローチ～

講師

竹中 俊子 氏

米国ワシントン大学ロースクール教授
立教大学法学部国際ビジネス法学科
客員教授、ニューヨーク州 弁護士



日時

2025年12月15日(月) 13:30～15:30

新たな製品を市場に投入するには、時間・コスト・創意工夫といった多大なリソースが投入されます。一方で、一度商業的に成功を収めた製品ほど、すぐに模倣品が出回りやすく、特に製品の形状は、視覚的に強い印象を与えるにもかかわらず、模倣容易のため、企業にとって大きな課題となっています。

米国および欧州では、製品の形状に関し、特定の要件を満たすことで、登録不要の商標権や意匠権を獲得できるケースがあり、その権利範囲は日本よりも広く認められるケースも多く見られます。さらに、日本では著作権による保護が認められない形状であっても、欧米では一定の条件下で著作権で保護される場合があります。

これらの知財権による保護は、特許権と比較して、権利行使が容易であり、迅速な水際取締が可能となるメリットがある一方で、特許取得や製品の説明内容によっては、製品形状の商標保護が困難となるリスクも存在します。

本セミナーでは、具体的な事例を用いて、製品形状に関する主要な知財権の長所と短所を分析するとともに、米国およびドイツを中心に、EU加盟国における知財権のミックス保護、権利行使戦略について、実務において注意すべき事項に触れながら解説します。

【解説内容】(予定)

1. アメリカ・EU意匠保護制度の要点整理と比較

- －アメリカ意匠特許
- －EU登録・不登録意匠権
- －仮想例による欧米意匠権行使の比較

2. アメリカ・EU商標制度の要点整理と比較

- －アメリカ登録・不登録商標権
- －EU商標権・周知商標の保護
- －仮想例による欧米商標権行使の比較

3. アメリカ・EU(ドイツ)著作権制度の要点整理と比較

- －アメリカ著作権
- －EU著作権関連指令及びドイツ著作権
- －仮想例による欧米商標権行使の比較

4. まとめ

- －各種知財保護の長短・権利行使戦略

テキストはPDFで共有させていただきます

<対象>

- 意匠・商標・著作権をご担当の知財実務者の方はもちろん、特許業務をご担当の方
- 製品形状の保護やリスク管理に取り組まれている企業の知財・法務部門の方
- 特許事務所等で知財保護を総合的にサポートされている方

ライブ配信だからその場で講師に質問可能 & アーカイブ配信も実施(各講義翌日から2週間)

・聞き逃しても安心!期間内はなんどでも。

・再生速度を変更可能!



LIVE

